

カリフォルニアの風（9月号）

「後期へ」

時がたつのは早いですね。一年を折り返す時期になってしまいました。

そうそう、夏休み明けに「始めましょう」と伝えてからも5日がたち、今日から「後期」です。

「えっ、前期終わったの、ほんとうに？」とと思っている人もいるのではありませんか。

「だって、通知表がないよ！」

「はい、前期はなくしました」

去年にさかのぼります。前期「通知表」の所見を読んで、「自分のことを書いているとは思わない」という、心を激しく打つような言葉が届きました。ラグビーにたとえると、パスを受け取って前へ走り出した瞬間、タックルされ、その相手の右肩がみずおちにドンピシャ！

体は持ち上げられ左肩から地面にたたきつけられ、その後は痛くてうずくまってしまうような言葉。そのとき、「どうして、こういうことになるのだろう？」と考え、その次は、先生のせいではない、という思いが浮かんできました。伝えたいこと、文字数限定の中で伝えきれなかったかもしれないし、そもそも、前期は25日の授業日で、通知表作成の準備期間を考慮すると、4月に始まって、わずか20日ぐらいで評価し、所見を考え、伝えるというしくみに問題があるので、と。20日というのは、週5日の全日制にあてはめると、4月にはじまり、5月のゴールデンウィーク後のところで、この時期に「通知表」配付は本当にいいの、と。ラグビーで言えば、一人ひとりの特性やよさが把握できていないところに、「明日、ゲームだ。お前たち出ろ！」と監督に言われているようなもの。思わず、「俺はそのポジションには向いていないと思うけど」と言い返したくなる。「せめて、ルールが分かってきて、体も出来上がってきて、体力もついてきてから、ゲームに出してほしいよな」と、思ってしまうけど、みんなはどう思いますか？

さて、過去から学ぶ、だから、決めました。「前期通知表は、作成しない」に。前期は、時間をかけて見てきた一人ひとりの特性やよさ、また課題を「個別面談」で伝えてもらうことの方が、意義があると判断をして。そこで、みなさんにお願ひがあります。前期を、次の五つについて「どんな感じかな、できただろうか？」と、自分に問いかけてみてください。

- 補習校は、自分にとってどういう役割を果たしているところですか？
- 国語の力は、ついただろうか？
- 授業中、一生懸命取り組んだらうか？
- 家庭学習は、しっかりできただろうか？
- よくなかったのは、どんなところだらうか？

一つひとつを振り返って、お家の人や先生とお話をして、後期につなげて行ってほしいな、と思っています。なぜなら、「できない」と気付くことが「成長」につながるからで、なぜできなかったか、どこでつまずいたのかを探り、「次からはできるようにする」ことが、できるようになるためには大事なことで、そういう習慣を身に付け、定着させることが最重要だと思うから。

さあ、前期から「後期」へ、できることを増やしに、改めて「始めましょう！」

私たちも振り返ります。先ほどの五つをこちら側に変換して。

- 補習校は、子どもたちにとってどういう役割を果たしているところだろうか？
- 国語の力をつけることができただろうか？
- 授業中、子どもたちが一生懸命取り組めるよう、どんな工夫をしたらだろうか？
- 家庭学習を習慣化するため、「必須」の出し方にどんな工夫をしたらだろうか？
- 今後の指導改善に向け、後期はどこを直せばよいだろうか？

これらとともに、保護者に協力していただく「教育活動アンケート」の結果や先生たちに取り組んでいただく「教員アンケート」の内容を参考にしながら、「後期」は、あなたと私たちが一緒になって、あなたは「学習改善」、私たちは「指導改善」につなぐ折り返しにしていきたいと思っています。

それは、もう一度、ラグビーにたとえると、パスをもらった瞬間に倒されないよう、ステップを切る、それも右へ切るか、それとも左かは対戦相手の特長をよく見て、改善をするようなもの。その改善の結果が、後期の通知表を見たとき、「私のことをよく見て評価してくれているし、書いてくれていると思う」になっていくと思うから。

「さあ、今日から後期が始まるよ！」

(ラグビーワールドカップフランス大会に出ている選手たちも、ゲーム後、振り返って、話し合
って、改善し合って、次への準備を始めているよ！)